

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○を付けます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (ユニット名)	グループホームつくしんぼ
所在地 (県・市町村名)	三重県津市
記入者名 (管理者)	高木百代
記入日	平成19年 8月 日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
<b>1. 理念と共有</b>				
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>これまでの理念を地域に発信し、その人が地域の中で、その人らしく生活できるよう支援している。</p>	○	<p>季節毎の食事会等を通して、在宅での簡単なリハビリや物忘れ予防など提供できれば、と考えている。</p>
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>申し送りやミーティングの際、理念に触れ、確認し合う様になっている。</p>	○	<p>内部研修という意味をこめて、アンケート形式を取り入れ、理念を学んでいる。</p>
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>家族には訪問時、折に触れ伝えている。</p>	○	<p>地域に向け、繰り返し伝え、理解を得るようにする。</p>
<b>2. 地域との支えあい</b>				
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>散歩に出掛けたときは、お互いに声を掛け合ったり、世間話をしたりしている。</p>	○	<p>散歩の際は花や花の色、鳥の鳴き声など、人との会話などに最大限触れるよう、心がけている。</p>
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>ゴミ集積場のそうじ当番が回ってくる。</p>	○	<p>スタッフと一緒にゴミ集積場の清掃を行っている。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	自治会の理解を得て、計画中である。	○	公民館を利用させて頂き、地域の高齢者に手打ちそばを食べて頂く様、計画している。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で自己評価を行う事により、改善していかなければならない所に気づき、話し合う機会を持っている。	○	今後も可能な限り、アンケート形式の学びを取り入れ、仕事に対する評価が確認という意味を含んでいることを職員間に理解してもらうようにする。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の代表者の方々のご意見を事業所に持ち帰り、職員間でも話し合い、可能なかぎりサービスに活かしている。	○	運営推進会議で出された意見等、事業所として「気づかされる」こともあり、今後も開催を実施していく。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域の代表者の方々との雑談の中からサービスの質の向上につながるヒントを見付け、それに取り組んでいる。	○	事業所として解決出来ない問題などある場合は市の担当窓口に出向き、相談をし、事業推進に活かすよう、心がけている。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	大切な事であるのは理解しているが、実施できていない。	○	学ぶ機会があれば積極的に学んで行く。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修会を設けて日々学んでいる。	○	介護の実際において、人権の尊重、尊厳を基本において、言葉使いや接し方等充分に気をつけて行っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約には十分な説明のじかんをとり、質問にも答え、理解・納得を得たうえで、手続きを進めている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見を尊重し、不満や苦情をその都度可能なかぎり受け止め、反映させている。	○ 家族の面会、外部の面会者及び職員等に対し、自分の意見や気持ちを自由に表すため、時間を設け、機会を持って頂いている。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の利用料の請求の際、通信欄を設けて文章にて利用者の様子をお知らせしている。又、意見・感想・提案等お願いしている。	○ 利用料請求の余白を最大限活用し、利用者個々の様子、月の行事等伝えている。今後も継続していく。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会の必要性は理解しているが実施に至っていない。	○ 家族の了解をとり、家族会を開催する予定である旨伝えている。日程等、家族との打ち合わせ中。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフミーティング、又は文章等で職員の意見を聞き、運営に反映させている。	○ アンケート形式の研修の際、職員の意見を取り入れ、活用していく。また、している。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の自由な暮らしをできる限り支えられるよう、柔軟な体制をとっている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	やむを得ず職員が交代する場合、その時期など最善の努力をしている。	○ 職員は可能な限り長く勤務して欲しいと、事業所として願っているが離職防止策の決め手を模索している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修を受けた職員の研修報告を全職員に回覧し、内部研修の際の研修資料としている。	○ 現状、職員の確保は非常に困難になっている。特に夜勤者、土・日・祝日の勤務者確保に憂慮しているが、勤務を継続している職員には、研修の機会を提示している。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所を訪問し、当事業所が課題としていることからの意見をもとめ、参考になっている。	○ 例ですが、各グループホームの利用者が一同に会して、一日拡大ディサービスができるネットワークづくりができればと考えている。利用者が主役で、歌あり、ダンスあり、運動あり、作品の発表ありなど。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	雑談の中から職員がかかえている不安や不満をくみ取り、ストレスをためない様、取り組んでいる。	○ 運営者として、何でも話のできる機会を持ち、介護現場でのストレスの解消に努めている。(胸にためておかずにも話すこと)
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は職員の資格取得に向けた支援を行い、向上を図っている。	
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人がおかれている状況を把握し、信頼関係をつくる様努めている。	○ 遠方にすんでいる家族には早急に電話をし、状況報告を行い、同意を得て、困っていること、不安なことに対応している。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の困り事には真摯に受け止め、事業所として出来ることは職員一丸となって支援するよう取り組んでいる。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス内容(種類)を説明している。	○	今後はグループホーム利用者が本人にとって妥当であるかどうか等も含めた見極めをして行きたいと考えている。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	一度、体験など勧めている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に料理、手芸等行っている。	○	おしゃべりの場を設け、みんなで楽しい昔話や家族の話や若かった頃の話など、さりげない話題づくりをし、話をしていただくことで、心の活性化に取り組んでいる。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族との連絡を密にとり、利用者の様子を報告し、相談している。又、面会を促している。	○	母の日や誕生日を忘れずにプレゼントを持参する家族もあり、そんな時は利用者、職員、家族の一体感を生み出している。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	絶縁状態の家族には手紙等で連絡をとっている。その他の方には家族の必要性を絶えずお話している。	○	例ですが、絶縁状態にあった家族が突然面会に来てくださって取り組みの成果を感じた。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ふるさと訪問等を行っている。	○	ふるさと訪問は継続して取り組んでいく。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	皆で集まる場所があり、そこで歌をうたったり、体操したりしている。	○	例ですが、ちょっとしたかすり傷でバンソウコウをはったりしていると、自分のことのように心配する様子、他を気遣う様子などがみられる。みんなが集まる場所の必要性を今後も活用していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	訪問あるいは面会をしている。	○	病気やケガで入院された場合などは、なじみの職員が面会をし、様子をうかがう。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で声かけを行い、把握に努めている。	○	その人の体調やリズムがあるので、食事等みんなが一緒にいただくのが理想としながら、体調に合った自由な時間に食べていただく等行っている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族にお話を聞く事により、これまでの暮らしを把握している。	○	把握した上で、右マヒ歩行困難な状態であっても、今以上にADLの低下を招かないよう、本人が希望する杖歩行など支援をしている。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの生活のリズムを把握し、行動や小さな動作から感じ取り、本人の全体像を把握している。	○	把握した上で、介護計画を作成し、実施している。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人がより良く暮らす為の課題やケアのあり方について、本人・家族と日々のかかわりの中で思いや意見を聞き、介護計画の作成に活かしている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	その様な時は話し合いを行い、新たな計画を作成している。	○	また当然家族の意見を聞き、これまでと異なった介護内容になり、必要な介護用品、費用などが増えた場合は用意をいただいている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	3ヶ月に一度、介護日誌を見直し、チェックしている。	○	日勤者、夜勤者の引継ぎの中で、利用者にとって必要な介護の内容や変更項目などある場合には、即、反映させるよう取り組んでいる。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院・外出等で家族の要望に応じ支援している。	○	単独型なので必要とする他のサービス利用は介護面ではできないが、通院・外出等は継続して行う。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	団地という特性を活かし、地域で見守っていただいている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	理美容は職員がボランティアで行っている。	○	地域のケアマネジャーに声かけてもらっているが、利用者が重度化していて、他のサービスを受ける事が出来ない。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターと協働出来ていない。	○	事業所のみでは解決困難な問題が発生した時のためにも地域包括支援センターと協働していきたいと希望している。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の他、利用前からのかかりつけ医での医療を受けられるよう支援している。	○	月1～2回程度の受診を支援している。



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	受診の都度、相談しながら進めている。		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	同じ施設(ディサービス)の看護師と連絡をとっている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	見舞いの際、医師・看護師と話し合いを行い、できるだけ早期に退院できるようアプローチしている。	○	退院後もこれまでの生活となんら変わることはない支援を行うよう心がけている。
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人や家族の意向を優先して事業所が対応しうる最大の支援方法を話し合っている。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人の気持ちを大切にしつつ、家族と話し合い利用者が安心して終末期を過ごしていけるよう取り組んでいる。急変した場合はすぐ対応して頂けるよう医療機関とも連携を図っている。		
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替え時にはこれまでの生活環境、支援の内容、注意が必要な点について情報提供し、連携を図っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	「さりげなく」に特に気を付けている。	○ 例として、トイレ等への誘導も声かけには耳元で伝え、一緒に行くような取り組みをしている。日誌の見出しはイニシャルで表示。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の希望が優先である。	○ 自己表現、自己決定が困難な場合は職員間で日常生活の場面、場面を話し合い。本人にとって最善であるという暮らしが提供できるよう取り組んでいる。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れは持っているが、時間を区切った過ごし方はしていない。一人ひとりの体調に配慮しながら本人の希望を優先している。	○ 例えば、日常生活での決め事がつくられたとしても、その人のリズムがあり、いつの間にかその人の暮らしになっている。それを訂正するつもりはなく、それで善しとするその人のペースを大事にするための取り組みを継続。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	実施している。理容はボランティアでスタッフが行っている。	○ 重度の傾向があり、店の階段に手すりがない場合を考慮し、ボランティア(スタッフ)に依存している。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日のメニューは利用者と相談しながら決めるようにしている。また調理・盛り付け、片付け等も一緒に行い、同じテーブルを囲んで楽しく食事できるよう、雰囲気づくりをしている。	○ 食事の際は、そろって「いただきます」を大きな声で唱和するよう取り組んでいる。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	一人ひとりの嗜好物を理解し、それらを職員と一っしょに楽しめるよう支援している。	○ お酒やたばこを嗜好する利用者は現状皆無ですが、今後そうした利用者がある場合は、制限せず場所を決めて吸っていただく。お酒はお祝いの席などで飲んでいただくよう取り組んでいく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄のパターンを把握し、トイレ誘導を実施している。	○	重度化しつつある利用者が増えているが、寝たきりという最悪な状態は可能な限り回避し、声かけをし、誘導をし、一部介助をしながら排泄の自立援助を継続していく。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの体調に合わせて、できるかぎり希望の時間帯に入浴を楽しんでもらっている。	○	小規模ですので1日2人程度の入浴し、十分な時間をつくって自分でできることはやっていただき、背中などは職員が手伝う。大事なことはフロから上がった後、鏡やブラシを手渡し、整髪等自分でやっていただくようにしている。鏡の中の自分を見つめることを勧めている。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。また体調や希望を考慮して、ゆっくり休息がとれるよう、支援している。	○	可能な限り、昼夜逆転した生活でないよう、夜は気持ちよく安心して眠っていただけるよう、居室のあかり等にも気を配るよう取り組んでいる。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	できる事を一緒に行い、支援をしている。	○	掃除、洗濯(干す、たたむ)、食事のセット、手指消毒、テーブルをふくなど、役割を分担し、楽しみごとや気晴らしにはディサービス、他のグループホームの利用者と交流し、コンサートや動物園、水族館などへ参加をしている。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理ができる人には実施している。できない人には外出時に財布を渡し、使える様支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くのお店へ買い物に行ったり、散歩に行ったりと、自由にしてもらっている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年間行事に取り入れている。(ふる里訪問、温泉旅行など)	○	今後、ご家族との協力を得て、墓参りや正月の外泊など家族と過ごせるプランに取り組みたいと考えている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は本人が希望すれば、いつでもかける事ができる。手紙も同様である。	○ そうした事は今後も継続して取り組んでいく。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	前もって連絡を頂ければ、いつでも遊びに来るのは可能である。	
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>			
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修を行い、勉強する機会を設けている。	○ 身体拘束がいかにかその人の人権や尊厳を疎外し、傷つけ、否定につながってゆくものであるかを職員間の共通認識として持ってもらうように研修を行っている。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者が外出しそうな様子を察知したら、安全面に配慮しながら、気のすむまで一緒についていく。	○ 周辺は団地なので、曲がり角が多く、また車の通りも激しく危険要素が身近にあるため、道路へ出ることは極力避けることとし、庭へはいつでも自由に出られるように、玄関ドア、掃き出し窓等、夏場は開放している。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員はさりげなく利用者の所在を把握し、奥まった居室の利用者には一人ひとりに合わせ、声かけを行っている。	○ 夜間は時間を決めての巡回対応の他、安眠妨害にならない配慮をしながら利用者の足音などに気づいた場合は静かに会話するなどしている。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人ひとりの状態に応じて危険を防ぐ取り組みをしている。	○ 針箱、ハサミ、マッチ、ライター、果物ナイフなど、利用者の同意を得て、手の届かない場所に保管をしている。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人ひとりの状態から予測される危険を検討し、職員の連携を深めている。ヒヤリハットを記録している。	○ 転倒以外での事故は発生していないが、そのことに慢心せず、職員間の連携において、事故防止にはとどんでいく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルはあるが定期的に訓練は行えていない。	○	行政や消防署に協力をお願いし、全ての職員が緊急時に対応できるよう訓練を行いたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人の協力を得られるよう働きかけている	定期的な避難訓練は行えていないが、災害時の非常用食料等はそろえている。	○	マニュアルを作成し災害時に慌てず確実な避難誘導ができるよう訓練をしていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	一人ひとりに起こり得るリスクについて把握したうえで、抑制感のない暮らしができるよう支援し、家族にも説明している。	○	家族に向けては気楽に暮らしていただけるよう制限、制止、禁止、抑制感等といった不自由さを強いる様子のないよう、はっきりと伝えている。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタルチェックし、変化は日誌に記し、スタッフ間で共有している。	○	利用者が重度化傾向にあるので、毎日のバイタルチェックは欠かせない。また状態により食事の内容などもその人に合ったものを加味し工夫して食べていただく等取り組みをしている。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報提供書をファイリングして全スタッフに見てもらっている。	○	服薬の必要性を理解し、食後飲んだ事を必ず確認し、その事を日誌に記載する取り組みを行っている。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便表を作り、排便をチェックしている。	○	便秘傾向の利用者には医師からの服薬の他に様子をうかがいながら、便をうながすせんい食を食べていただくなど取り組んでいる。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、歯磨きの声かけをしている。自分でできない人には介助をする。	○	重度化が目立った状態であっても、口腔ケアを励行し、味覚の減退や清潔の保持を心がけるよう取り組んでいく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事や水分の摂取量を日誌に記録し、職員が情報を共有している。	○	栄養の専門的な観点からチェックしてもらうようにする。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	食前に手指を消毒している。インフルエンザ予防接種は、利用者・職員共に受けている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具のハイター消毒をしている。食材は賞味期限確認後、調理している。	○	食器、器具類の水分は保管する前にきれいにふきとるよう注意をうながしている。乾燥状態を守るようにしている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	民家改修型なので親しみやすい。	○	特に夏場、気候の良い日は玄関・通路・掃き出し窓、居室の窓等開放し、誰でも訪問していただけるよう、また自然の風が部屋を吹き抜けていくよう取り組んでいる。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔に心がけ、季節の花を飾ったりしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを置いたり、廊下に椅子を置いたりしている。	○	イスに腰かけ、昔のはやり歌を歌ったり、本を読んだり、雑誌をめくったり、銘々に自由に過ごしている様子が散見される。こうした取り組みを継続する。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使いなれた家具やテレビなどを使ってもらい、本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	ベッド使用、寝具類は色彩や柄など好みの物を取り入れて、居心地よい場所になっている。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	空気の入換えや温度調節は常に気を付けている。	○	まず、朝窓を開放し、自然の風を入れて、空気の淀みのないように、臭気の解消を行っている。
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	屋内の段差をなくしている。	○	段差の解消や廊下、トイレ、玄関、門までの通路、外へ出るための階段横に手すりを設置している。道路へ出る階段はADL保持のため、あえて段差解消はしていない。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室・トイレ等、混乱がない様、表示してある。	○	表示と同時にトイレへの誘導に取り組んでいる。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダや庭にベンチやイスを置き、利用者がいつでも外に出て、日光浴や外気浴ができる。また気の合った者同士のおしゃべりの場になっている。	○	ベランダは好んで利用するため、雑誌を見たり、居眠りする恰好の場所として好まれている。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない



項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

声出し運動（言葉遊び、早口ことば、格言、いろはかるた等、声出し運動と名付けて行っている）  
ふるさと訪問（忘れかけている故郷を訪問し、昔の様子を思い出していただき、利用者、職員が共になつかしい場面等共有する取り組みをしている。)